

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の体系を内外に明示する。	→カリキュラムマップの作成(2013年度までに)	C	C	B	A	A
2. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の適切性を検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会(研究科)による検証および研究科委員会に対する報告書の作成(2013年度までに)	D	C	C	B	B
3. 博士課程後期課程において、学位取得までのプロセスを見直し、キャンディデート制を導入する。	→「学位取得までのプロセス」の改訂(2012年度までに)	C	C	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に3つのポリシーを公開したのを受け、カリキュラム研究委員会(研究科)においてカリキュラム・マップを検討・策定し(2012年度)、これを学生へ配付の『履修の手引』とWEBにおいて公開している(2013年度)。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)について、2013年度の大学評価では『…人材養成の目的や学位審査のプロセスに偏っている記述が見受けられる』との指摘を受けている(『関西学院大学に対する大学評価(認証評価)結果』, p.18)。これを受けてカリキュラム・ポリシーを見直すとともに、カリキュラム・マップも再度検証し、改訂すべきと認識している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か カリキュラム研究委員会(研究科)および部長室委員会にてカリキュラム・ポリシー改訂への具体的な対応を検討するなかで(2015年度カリキュラム改正に際して)、カリキュラム・マップについても改訂案を策定し、研究科委員会に提示する。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか カリキュラム研究委員会(研究科)において博士課程5年間の教育課程を検証するにあたり、前期課程においては修士論文「中間発表」の時期変更や修了要件の見直しなどを研究科委員会へ提案し、内規に反映することが承認されている(2014年2月～6月、一部現在も協議中)。後期課程においてはコースワークの充実を掲げ、毎年度適切な数の講義科目を開講すべく、カリキュラム研究委員会(研究科)および部長室委員会にて内規の整備と開講形態の協議を進めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記取組の課題は、新研究科内規が施行され運用が開始された後に浮き彫りになってくるものと思われる。しかしながら、前期課程・修士論文「中間発表」の時期変更(10月から7月へ日程を早める)について、学生間に主だった混乱はなく、むしろ論文執筆にあたって十分な準備を働きかける契機となったと認識している。後期課程の講義科目開講については教員負担に配慮しながら、その開講形態を綿密に協議し、学則の改正につなげる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か まずは学則および研究科内規の改正を、研究科の構成員すべての共通認識のもとに果たす。その上で「学位取得までのプロセス」に反映し、学生への十分な周知を図る。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「学位(修士・博士)論文」審査基準が明確化され、2013年度の部内公開・試行を経て2014年度から正式に運用を開始している。その上でキャンディデート制に則した「学位取得までのプロセス」改訂への検討を開始するために、まずはキャンディデート制度を、2015年度より正式に内規に盛り込むことをカリキュラム研究委員会(研究科)の議を経て研究科委員会にて承認した(2014年3月)。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か さらなる課程博士輩出に向けて制度的な土壌が整ったと認識している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度の新研究科内規施行に向けて、2014年度中に制度化されたキャンディデートの仕組みを「学位取得までのプロセス」に落とし込む。その上で、2015年度新生を対象に十分なオリエンテーションを行い、論文指導に活かしていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆